

# ご自宅訪問時のマナー

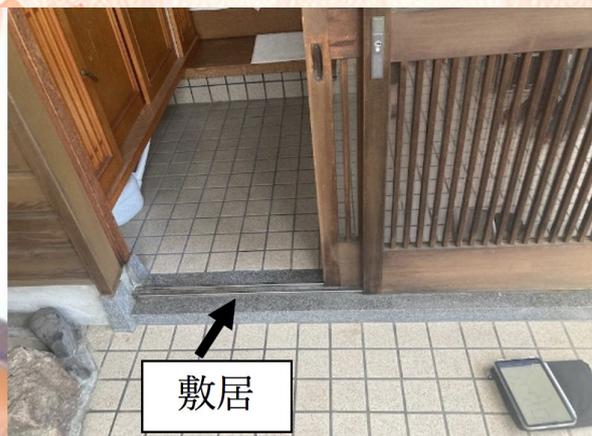
デイサービス、居宅介護支援事業を運営しておられる企業様から  
接遇マナー研修の依頼を受けた際に、ケアマネジャーが自宅を訪問  
する際の、靴の脱ぎ方・置き方、和室での立ち居振る舞いについて教  
えてほしいとのご要望がありました。経営幹部の方が、ここまで細か  
いことに気を配っておられることに、とても嬉しく思いました。  
今回はその際にお伝えした内容を紹介します。

## ① 敷居を踏まない

玄関は家の顔とも言うべきところで、その玄関の敷居を踏むとい  
う事はその家の主人の頭を踏むことになると言われますので、敷居はま  
たいで入ります。

また、敷居は「家の結界」とも言われます。家の敷居から中に入っ  
たら、相手の聖域に入っていると意識して失礼のないように振舞うこと  
も大切です。

現実的な理由としては、玄関や部屋の入口の敷居は日本家屋の建  
具の一部で、扉の動きや地震などで緩んだり歪んだりします。敷居を  
踏むことで、家の建付けが悪くなったり、敷居にホコリが溜まるなど  
して、襖や障子の動きが悪くなることもありますので踏まないよう  
にしましょう。



## ② 靴は入船で脱ぎ、出船に揃える

靴を脱ぐ時は家人にお尻を向けないよう、相手の方を向いて靴を脱ぎます。これを入船で脱ぐ(船が入港する時のように、つま先を家の中に向けて)と言います。

次に、靴を出船の方向(船が出航する時のように、つま先を外に向けて)に向きを変えて、端の方に揃えて置きます。この時も家人にお尻を向けないようにします。端の方に置くのは、家人や他の方が来られた時に、邪魔にならないように配慮するものです。

家人の靴が乱れて置かれているときは、さっと揃えておきましょう。

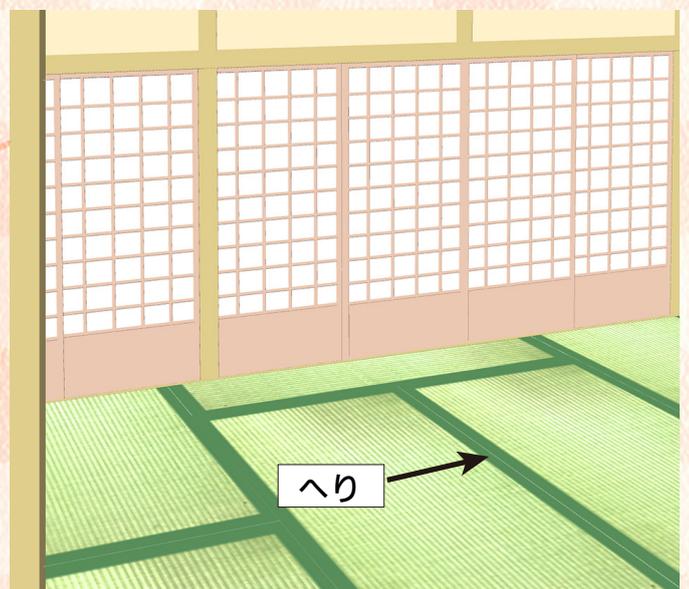


## ③ 畳のへりを踏まない

畳のへりを踏まないというのは、武家社会から受け継がれた作法です。当時は床下に敵が忍び込んで畳のへりの隙間から刀で突き刺して暗殺をするということもあったそうです。へりの隙間のわずかな光の動きから居場所を特定されないように、へりを踏んだり、へりの上に座ることは避けたそうです。

また当時は、畳のへりは高価な絹や麻が使われ植物で染めていましたので、畳よりも弱い素材で傷みやすいこともあり、踏まないように大切に扱われました。後に、へりに家紋が織り込まれるようになり、畳のへりを踏むことは家紋を踏む事になり、ご先祖を無下に扱うことと言われました。

このような作法が現代に受け継がれているのです。



#### ④ 座布団の作法

訪問先で座布団をすすめられた時は、まずは座布団の横又は斜め後ろあたりに正座し挨拶をしてから、「失礼します」と言って座布団の後ろ又は斜め後ろから、にじって座布団に座ります。

挨拶の後、立って座布団の上に移動し座るのは、作法を知らないなと思われてしまいます。

退席する際も、座布団の上で立ち上がるのではなく、にじりながら座布団から降りて、座布団の横で座ったままお礼など伝え退席します。

「にじる」とは、正座をしたまま少しずつ移動する動作で、両手を畳の少し前方について、両膝を少し浮かせ足の甲を滑らせるようにして動きます。前に進む時は「膝行(しっこう)」、後ろに下がる時は「膝退(しったい)」と言います。

現代の生活の中では「にじる」動作は使われなくなっていますが、お茶席では正客(招かれたお客様の代表となる方)が亭主の点てたお茶をいただく際に、自分の席から亭主の前まで進みお茶をいただき、自席に戻る際に使われます。



## ⑤ 玄関でのマナー

冬場にコートなどを着ているときは、玄関先で脱いで片手にもたせてからインターホンを押します。また、帰りもコートなどは玄関を出てから着るのがマナーです。

しかし、寒い冬に家人より「寒いですからどうぞコートをお召してください」などと言われた場合は、「ありがとうございます。では失礼して着させていただきます」と伝え、コートを着てもよいでしょう。その後玄関で挨拶をして外に出ます。扉を閉める際は、ゆっくり静かに閉めます。

最近はこのような作法を家庭で教えることも少なくなり、知らない方も多いかもかもしれませんが、ご高齢の方々はこのような作法は当たり前のこととして生きてこられたのです。

◆ 日本の古くからの作法を心得て接してさしあげることが、ご高齢の方の安心にもつながるのではないのでしょうか。



垣内イスズ